

大気汚染物質排出量調査 調査票記入の手引

目次

- 1 大気汚染物質排出量調査の概要
- 2 調査票の記入方法
- 3 調査票の提出方法・提出先
- 4 調査票の記載事項を変更する場合
- 5 資料編

記入例1 非常用施設（使用実績のなかった施設）

記入例2 使用実績のあった施設

令和5年5月
横浜市 環境創造局
大気・音環境課 大気担当

1 大気汚染物質排出量調査の概要

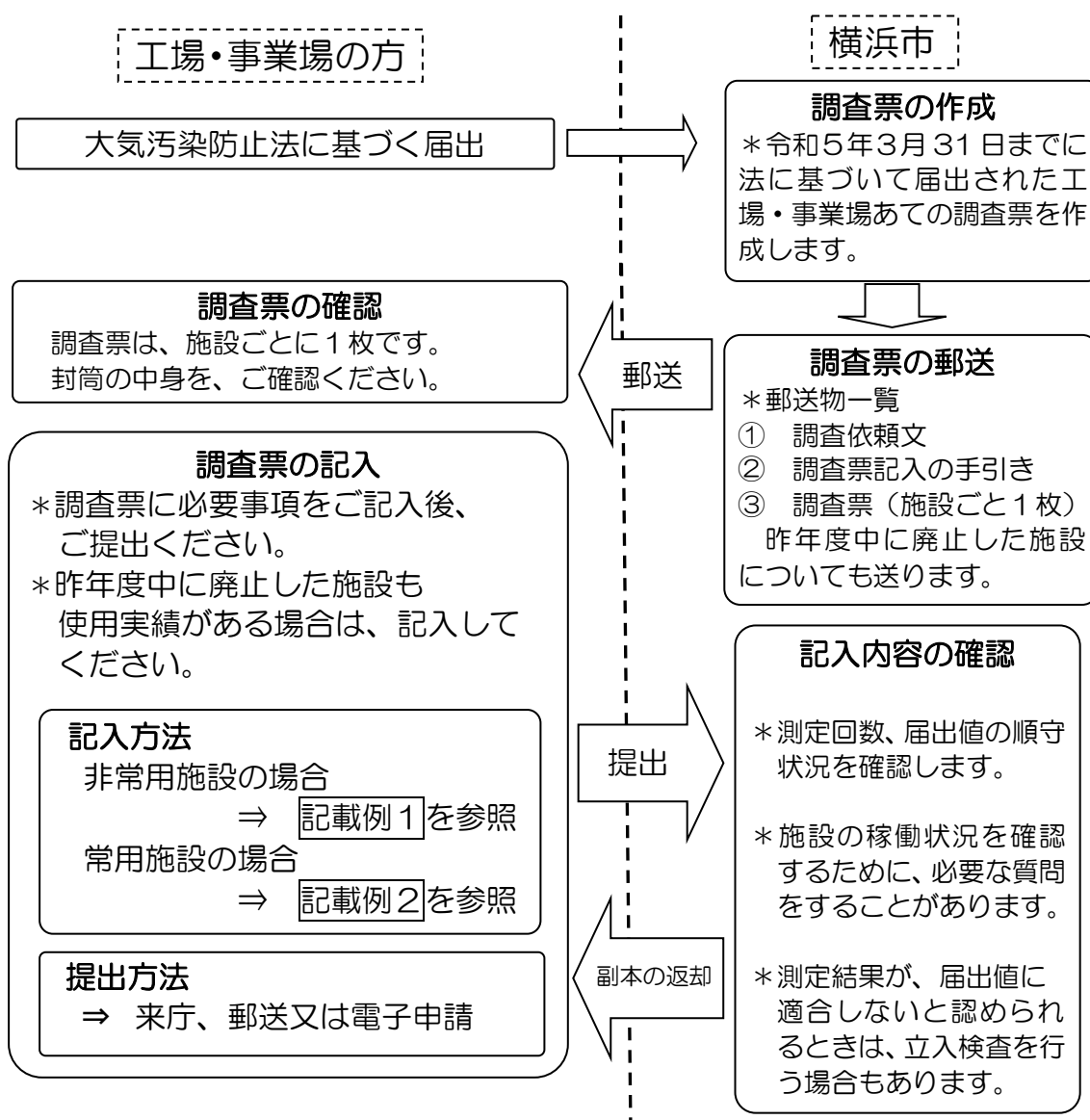
(1) 調査の目的

工場や事業場に設置された「ばい煙発生施設」(以下「施設」といいます。)は、「大気汚染防止法」(以下「法」といいます。)や「横浜市生活環境の保全等に関する条例」(以下「条例」といいます。)に基づくばい煙測定を行うことが義務づけられています。

横浜市では、法第26条第1項に基づき、法・条例に基づく測定回数と規制基準の遵守状況を確認することを目的に、法に基づく届出がされた工場や事業場の方に、「大気汚染物質排出量調査票」(以下「調査票」といいます。)を年に1回程度お送りし、必要事項を記入してご提出いただくことをお願いしています。

なお、本調査結果は、環境行政の基礎資料とするため、国や県に情報提供する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

(2) 調査の流れ



2 調査票の記入方法

調査票の記入方法は、次の2種類があります。

(1) 同封されている調査票に記入する場合

調査票に必要事項をご記入の上、ご提出ください。

非常用施設（使用実績のなかった施設）は **記載例1** をご覧ください。

使用実績のあった施設は **記載例2** をご覧ください。

※ 必要事項が記入されていれば同封の調査票でなくてもかまいません

(2) 「らくらく調査票」を利用する場合

燃料使用量と測定結果を入力するだけで、調査票に必要な計算が簡単にできる「らくらく調査票」を横浜市ホームページに掲載しました。

この調査票をダウンロードして入力後、ご提出ください。

⇒ 使い方についてはホームページをご覧ください。

入力すると簡単に調査票ができます
ボイラ・冷温水発生機・
ガスエンジンにおすすめ！

※よくある質問について、ホームページにQA集を公開しています。記入方法等について、ご不明な点等がございましたら、お問合せの前にご確認をお願いします。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/akushu/taikiosen/haisyuturyou.html>



横浜市ホームページ

「横浜市 排出量調査」で検索

3 調査票の提出方法・提出先

(1) 郵送での提出の場合

郵送での提出の場合、調査票の記載内容に不備・不足がないことを確認後、郵送してください。なお、提出は1部で構いません。

控えが必要な場合は、調査票を2部と返信用封筒（返信用切手を貼って返信先を記入してください。）を同封の上、郵送してください。 受付印を押印後、1部を返信します。

※受付まで日数を要する場合があります。

※内容を確認する場合がありますので、調査票の記載担当者を必ず記載してください。

(2) 窓口での提出の場合

来庁での提出の場合、調査票の記載内容に不備・不足がないことを確認後、提出となります。

提出は、1部で構いません。控えが必要な場合は、窓口へ2部お持ちください。受付印を押印後、その場で1部をお返しします。

(3) 電子申請での提出の場合

電子申請での提出の場合、調査票を記載いただき、電子データ（pdf, xls, xlsxの拡張子のもの）を横浜市電子申請システムにて提出いただきます。提出いただいたものの記載内容に不備・不足がないことを確認後、受理となります。

エクセルシートは2（2）でご案内した「らくらく調査票」を是非ご活用ください。



横浜市電子申請・届出システム

☆ お問い合わせ・届出先 ☆

横浜市 環境創造局 大気・音環境課 大気担当

住所 | 〒231-0005
横浜市中区本町6丁目 50-10

電話 | 045-671-3843

受付時間 | 月曜日～金曜日
8:45～12:00、13:00～17:15
祝日、休日を除く



来庁の場合は、27階南側（緑）の④番窓口にお越しください。

4 調査票の記載事項を変更する場合

調査票に記載されている、工場・事業場の名称、住所、施設名称等の事項については、各事業場からの法に基づく届出内容から転記しています。

お送りした調査票の記載事項の変更等については、法に基づく届出手続きが必要な場合があります。

(1) 届出が必要な場合・届出をする時期

届出が必要な場合	届出書名称	届出時期
ばい煙発生施設の設置	ばい煙発生施設設置届出書	工事着工の60日前まで
ばい煙発生施設の構造変更、使用方法変更 ばい煙の処理方法の変更	ばい煙発生施設変更届出書	
法人名称の変更、住所の変更、代表者の変更	氏名等変更届出書	事由発生後30日以内
工場・事業場の名称変更、住所表記の変更		
ばい煙発生施設の譲り受け、借り受け	承継届出書	
法人の相続、合併、分割		
ばい煙発生施設の廃止 (一部廃止も含む)	使用廃止届出書	

(2) 届出様式・提出部数

届出様式は、市ホームページからダウンロードできますので、必要事項を記入して提出してください。提出部数は正副2部です。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/akushu/jorei/yousiki.html>

また、ばい煙発生施設の種類によっては、「横浜市生活環境の保全等に関する条例」の許可申請等が必要な場合がありますので、市ホームページでご確認ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/tetsuzuki/jourei.html>

(3) 電気事業法等に係る発電機等（常用・非常用）の届出

経済産業省 関東東北産業保安監督部 電力安全課（電話 048-600-0391～2）へ届出が必要です。

「横浜市ばい煙ダウンロード」で検索

記入例1 非常用施設（使用実績のなかった施設）

大気汚染物質排出量調査票 令和 5 年4月1日 ~ 令和 5 年3月31日実績) 送付番号 [] 届出期限 令和 5 年6月30日

確認してください

記入してください

記 載 不 要 で す

印字内容の確認をお願いします

大気汚染防止法の届出に基づいて印字しています。内容をご確認ください。

確認箇所	調査票の項目	
ア	1. 工場・事業場の概要	工場・事業所名称、所在地、郵便番号
イ	2. 施設の概要	施設番号
ウ		施設名称
エ		届出施設名称
オ		施設設置年月

記載をお願いします

項目名	記入方法
① 記載担当者	調査票を記入された方の所属、電話番号、氏名（フリガナ）をご記入ください。 当課からの問合せの際に使います。 施設管理会社の方でも構いません。
② 年度間乾き排出ガス量	定期的な点検以外に使用実績がなかった施設は、右詰め で「0」と記入してください。
③ 年度間使用（稼働）時間	

記入例2 常用施設（使用実績があった施設）

大気汚染物質排出量調査票 令和 4 年4月1日 ~ 令和 5 年3月31日実績) 送付番号 / 届出期限 令和 5 年6月30日

印字内容の確認をお願いします

大気汚染防止法の届出に基づいて印字しています。内容をご確認ください。

確認箇所	調査票の項目	
ア	1. 工場・事業場の概要	工場・事業所名称 所在地、郵便番号 名称
イ	2. 施設の概要	施設番号
ウ		施設名称
エ		届出施設名称
オ		施設設置年月
カ	3. 燃原料使用量	当該施設における燃原料（電気を含む）を種類別に印字しています。 種類のコード表は、別表1「燃原料記号及び使用量の単位」（11ページ）を参照ください。

記載をお願いします

① 記載担当者

調査票を記入された方の所属、電話番号、氏名（フリガナ）をご記入ください。
当課からの問合せの際に使います。施設管理会社の方でも構いません。

② 月間燃原料使用量

月ごとの燃原料使用量を次表の単位で記入し、合計欄には、当該年度の年間使用量の合計値を記入してください。

表 燃原料種類と単位

燃原料種類	単位
液体燃料	L (リットル)
固体燃料・パルプ廃液・産業廃棄物・LN G・LPG	kg (キログラム)
気体燃料	m ³ N (ノルマル立方メートル)
電気	kWh (キロワット時間)

③ 測定結果

当該年度に実施した排出ガスの測定結果を記入してください。

連続測定を行っている場合は、2か月ごとの平均値を記入し、6回分のデータを記入してください。なお、分析会社から発行される計量証明書の添付は不要です。

項目名	記入方法
測定年月日	測定日を記入
実測SO _x (硫黄酸化物) 濃度	ppm 単位で記入
実測NO _x (窒素酸化物) 濃度	ppm 単位で記入
実測ばいじん濃度※	g/m ³ N 単位で、小数点以下第3位まで記入 ※年度内にばいじんを測定していない場合は、備考欄に直近の測定日と濃度を記入してください。
実測HCl (塩化水素) 濃度	mg/m ³ N 単位で、小数点以下第1位まで記入
実測NH ₃ (アンモニア) 濃度	ppm 単位で、小数点以下第1位まで記入
O ₂ (酸素) 濃度	排出ガス (乾き) 中の実測値を%表示で、小数点以下第1位まで記入
水分量	排出ガス中の実測値を%表示で、小数点以下第1位まで記入
測定時の乾き排出ガス量	m ³ N/h 単位で記入
測定時の燃原料使用量 (時間)	測定時の1時間当たりの燃原料使用量を小数点以下第1位まで記入 燃原料の種類ごとの単位はP.16のとおりです。

④ 施設の稼働状況							
<div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">計算A</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">計算例</div>	<p>年度間使用（稼働）時間 当該年度の実働時間の合計値（1時間未満は四捨五入）を時間単位で記入してください。</p> <p>実稼働時間＝1日における稼働時間×年度間の稼働日数</p> <p>例 8時間×330日＝2,640時間</p>						
	<p>1日における使用（稼働）状況 通常日（0時～24時）における、およその始動時と終了時を、時間単位（■時■分）で記入してください。</p> <p>例 午前8時30分から 午後5時30分まで稼働 ⇒ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>08</td><td>30</td><td>17</td><td>30</td></tr></table></p>	08	30	17	30		
08	30	17	30				
	<p>使用（稼働）時間 当該年度における通常使用の初めの月と終わりの月を、月単位で記入してください。</p> <p>通年稼働の場合 例 4月から3月まで稼働 ⇒ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>04</td><td>03</td></tr></table></p> <p>該当年度に施設を休止した月がある場合 休止月も数えて記入してください。 例 4～6月、9～11月、1～2月まで稼働 ⇒ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>04</td><td>02</td></tr></table></p> <p>1か月のみ稼働した場合 例 5月のみ稼働 ⇒ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>05</td><td>05</td></tr></table></p> <p>年間にまったく稼働しなかった場合 すべて空白にして「0」と記入しないでください。</p>	04	03	04	02	05	05
04	03						
04	02						
05	05						

⑤ 年度間乾き排出ガス量

計算B

当該年度に排出した排出ガス量（乾き）を次の式を用いて計算し、計算値を $10^3 \text{m}^3 \text{N}$ 単位で記入してください。

$$Q = G \times 1/n \times (q_1/y_1 + q_2/y_2 + \dots + q_n/y_n)$$

Q : 年度間乾き排出ガス量

G : 年度間燃原料使用量 ⇒ ②月間燃原料使用量の合計値

n : 全測定回数

q_k : 全測定回 n 回目のうち k 回目に測定したときの排出ガス量（乾き）

y_k : 全測定回数 n 回目のうち k 回目に排出ガス量（乾き）を測定したときの燃原料使用量

計算例

当該年度に 2 回測定した場合（燃原料として気体燃料を使用）

・ 当該年度の年度間燃原料使用量 : $38,410 \text{m}^3 \text{N}$

項目	1 回目	2 回目
排出ガス量（乾き）	$804 \text{m}^3 \text{N} / \text{h}$	$775 \text{m}^3 \text{N} / \text{h}$
燃料使用量	$60 \text{m}^3 \text{N} / \text{h}$	$57 \text{m}^3 \text{N} / \text{h}$

$$Q = 38,410 \times 1/2 \times (804/60 + 775/57)$$

$$= 38,410 \times 1/2 \times (13.4 + 13.6)$$

$$= 518,535 \text{ (m}^3 \text{N)}$$

調査票には $10^3 \text{m}^3 \text{N}$ 単位で記載するので、

$$Q = 518,535 \text{ (m}^3 \text{N)} \doteq 519 \times 10^3 \text{ (m}^3 \text{N)}$$

調査票には、**年度間乾き排出ガス量 519 ($10^3 \text{m}^3 \text{N}$)** と記入。

備考 1

煙突を 2 施設以上で共有しており、施設ごとに排出ガス量（乾き）を測定している場合は、該当施設ごとに上記の式を用いて計算してください。

備考 2

煙突を 2 施設以上で共有していて、排出ガス量（乾き）を施設ごとに区別できない場合は、計算Bの式より求めた排出ガス量（乾き）Qを、次式の例を参考に按分して記入してください。

排出ガス量を直接把握できない施設 a の排出ガス量 (Q_a)

$$Q_a = Y_a / (Y_a + Y_b) \times Q$$

a 以外の施設の排出ガス量 (Q_b) は、 $Q_b = Q - Q_a$

Q_a : 施設 a の年度間乾き排出ガス量

Y_a : 施設 a の月間燃原料使用量（合計）

Q_b : 煙突を共有している施設 a 以外の施設の年度間乾き排出ガス量

Y_b : 煙突を共有している施設 a 以外の施設の月間燃原料使用量（合計）

⑥ ばい煙の年度間排出量

連続測定機等で把握している場合

当該年度で把握しているばい煙の排出量を、kg 単位で記入してください。

年度間乾き排出ガス量（計算Bで算出）とばい煙の測定結果から算出する方法

計算C

当該年度に排出した排出ガス量（乾き）は、計算Bの式を用いて値を出し、さらに次の計算式を用いて算出してください。
 小数点第1以下は四捨五入してください。

SO_x（硫黄酸化物）(kg)

年度間乾き排出ガス量（10³m³N）× SO_x濃度（ppm）の測定結果の平均×64÷22,400

NO_x（窒素酸化物）(kg)

年度間乾き排出ガス量（10³m³N）× NO_x濃度（ppm）の測定結果の平均×46÷22,400

ばいじん (kg)

年度間乾き排出ガス量×ばいじん濃度（g/m³N）の測定結果の平均

計算例

当該年度に2回測定した場合（燃原料として気体燃料を使用）

・当該年度の年度間燃原料使用量：38,410m³N

項目	1回目	2回目
排出ガス量（乾き）	804 m ³ N/h	775 m ³ N/h
燃料使用量	60 m ³ N/h	57 m ³ N/h
実測SO _x 濃度	10 ppm	11 ppm
実測NO _x 濃度	25 ppm	31 ppm
実測ばいじん濃度	0.001 g/m ³ N	0.001 g/m ³ N

・計算Bで算出した年度間乾き排出ガス量 **519 (10³m³N)**

SO_x（硫黄酸化物）(kg)

$$519 \times ((10+11) \div 2) \times 64 \div 22,400 = 15.5 \div \mathbf{16kg}$$

NO_x（窒素酸化物）(kg)

$$519 \times ((25+31) \div 2) \times 46 \div 22,400 = 29.8 \div \mathbf{30kg}$$

ばいじん (kg)

$$519 \times ((0.001+0.001) \div 2) = 0.519 \div \mathbf{1 kg}$$

⑦ 備考

年度内の測定頻度に不足があった場合は、理由を記入してください。

別表 1 燃原料記号及び使用量の単位

固体燃料 (kg)		液体燃料 (L)		気体燃料 (m ³ N)	
記号	名称	記号	名称	記号	名称
21	一般炭	10	特A重油 (LSA含む)	31	都市ガス (LNGを原料として いる都市ガス 13A)
22	コークス (一般燃料用石炭コークス。半成コークス、 コーライト、チャー含む)	11	A重油	32	コークス炉ガス
23	木材	12	B重油	33	高炉ガス
24	木炭	13	C重油 (LSC含む)	36	転炉ガス
25	その他の個体燃料 (タール、アスファルト、ピッチ、グリース、 パラフィン、石油コークス、練炭、豆炭、 ポリマー、廃タイヤ等を含む)	14	軽油	37	オフガス
		15	灯油	38	その他の気体燃料 (天然ガス、炭田ガス等を含む)
		16	原油		
		18	ナフサ		
		19	その他の液体燃料		

気体燃料 (kg)	
記号	名称
34	LNG
35	LPG

原料 (kg)	
記号	名称
41	鉄・鉄鉱石
42	硫化鉱
43	非鉄金属鉱石
44	原料炭
45	原料コークス (還元用コークス)
46	その他の原料 (発熱のないもの)

その他 (kg)	
記号	名称
51	パルプ廃液 ※乾きベースの使用量
53	一般廃棄物
54	産業廃棄物
55	51～54以外のもの (発熱のあるもの)

電気 (kWh)	
記号	名称
61	電気